



非日常と日常

施設長 松島栄一

東日本大震災から早一年。この未曾有災害に加え、原発の事故という人災も加わり福島県をはじめとする東北地方は大変なことになっている。このことは、もちろん非日常の事態であり、まさに国のあり方まで問われるような事態である。ところが、恐ろしいことに、当事者以外は、いつの間にか日常になりつつあるのも事実ではないだろうか。あるラジオの番組で、「わすれない」とか「あれから一年」という言葉がことさら叫ばれるのは、実はもう忘れかけているということではないかといっていたが、その通りだと思う。不謹慎と思われるかもしれないがそれでいいのかもしれないとも思う。震災直後のテンションでずーっといたらおかしいことになってしまうのだろう。むしろ、あれほどの地震は実は地震国日本では実は日常のことであるし、地球レベルで考えると何も特別なことではない。地震が来るのが日常だと考えて備えを組み立てるべきなのだろうし、その備えが足りなかったと思うべきなのだろう。

特に原発の問題は、意図的に日常のことを非日常にして、「想定外」に押しやったことへの反省と責任があるのだろう。そこそそ忘れてはならないのではないだろうか。「想定外」という言葉は地震国の日常からすれば極めて非常識であったのだろう。津波のことにしても地震国の常識から判断して改めて備えの見直しを淡々と行うべきなのだろうし、今度は西日本でも、関東でも起きることとして、備えることは備える。助け合うことは助け合うといったことが日常になってこそと思うのである。大地震を非日常にしない国づくりを今求められているのではないだろうか。

3月・4月の予定

3月19日(月);健康チェック週間

3月20日(火);春分の日(休業日)

3月23日(金);外出日

3月26日(月);「2011年度けやき」解散式・離任式(年度内活動最終日)

3月27日(火)~4月2日(月);春季休業期間

4月3日(火);「2012年度けやき」スタート!(昼食はお弁当の予定)

4月4日(水);給食スタート

ご報告 前号で再度呼びかけさせていただいた「障害福祉についての新たな法制に関する請願書」署名を、「けやき」取りまとめ分を「きょうされん」本部へ発送いたしました。また、集まった募金(総額 1000円)も指定口座の方へ入金いたしましたので、御報告いたします。ご協力ありがとうございました。

～3月「けやき」ミニ・ギャラリー①～

<ある日のけやき・風>



一宮・東浪見寺付近。「おっ！踏切が鳴った！」



「オー!!特急だあ～!!」



2月下旬の生き活き展

「けやき」販売コーナーの様子



♪誰かさんの誕生日のひとコマ♪

なかなかニュースでは報じられない「障害福祉情報」

政府が3月13日、障害者自立支援法の改正案を閣議決定しました。法案そのものは、前回お伝えした「厚生労働省案」に民主党が若干の修正を行ったものです。法律の名称は「障害者総合支援法」とし、施行日は2013年4月1日となります。

政府は障害者自立支援法違憲訴訟での和解を受けて、その「基本合意」のなかで自立支援法廃止の約束をし、それに変わる新法制定としての「障害者総合支援法」案です。しかし、残念ながら名称は変わっていても、「基本合意」にある「人間としての尊厳を深く傷つけた」ことへの「反省を踏まえ」、障害を持つ人を支援の対象としてではなく、権利の主体として捉えるような根本的な転換がありません。それどころか、実際には自立支援法の全115条項のうちの実に106条項がそのままそっくり残されました。事実上、「廃止」ではなく「改正」に過ぎません。当然、基本合意を受けて設けられた「障がい者制度改革推進会議」がまとめた「骨格提言」はそのほとんどが盛り込まれていません。「報酬支払いの方式」「制度の谷間のない『障害』の範囲」などのいくつかは不十分な形ですが、それでも法案に盛り込まれました。「応益負担（定率負担）の廃止」や「しっかり検討し対応する」とした「利用者負担」「支給決定のあり方」などは現行のままで、見直し規定はありながら、その見直しは非常に怪しいものです。

違憲訴訟の「和解」や、その上で自ら約束した「基本合意」を前にこの状況。謝罪して済む問題では決してないけれど、悪びれもせず、約束通りやっていますよ、と涼しい顔をしている政府を見ていて、この先、この国の何を信じればいいのか。（西）

お知らせ 職員深山理恵からのあいさつ

西木洩れ日編集長より、最後の原稿依頼がきました。「最後の…」というところがポイントです。どういう意味かは…？ちょっとお待ちください。

さて、私事ではありますが、今年に入り、5年生の息子とサックスを習い始めました。

以前の木洩れ日にも書かせていただいたように、少しずつ反抗期に突入している息子と私の関係は、特に進展もなく相変わらずぶつかり合いの日々。

そんな息子と一緒にレッスンするなんて、直ちにに却下されてしまうと思っていたのですが、息子から返ってきた言葉は「別にいいよ！」でした。

きっと息子は私に負ける気がしなかったのでしょう。私より早く上手くなって見下してやりたいと思っていたのかもしれませんが。(いつも私に怒られてばかりですからね…) まあその点では息子の思っていた通りだったかもしれませんが。やはり若さには勝てないようです。(自分の吸収力の悪さを年齢のせいにははいけませんね。)

でも私にとってはそんなことどうでもよかったのです。全くの負け惜しみではなく。

(母)「～しなさい!」「どうして～するの!」⇒(息子)「うるさいなあ」「もおいしい!」

日々そんな会話を繰り返している私たち親子。でも私は息子と会話がしたかった。会話の手段は何でも良かった。ただし言葉以外なら。そんなことを考えている時に、息子が「サックスをやりたい!」と言い出した。私にとっては願ったり叶ったり、ちょうどいいタイミングでした。

「そうだ!! 息子と一緒にサックスを始めよう!」

案の定、サックスを吹く息子もやっぱりいつも通りの息子でした。自分のタイミングで突然吹き出し、自分流に勝手に楽譜をアレンジして…息子らしいといえば息子らしい。

でも悪くない。そんな息子に私が合わせればいい。横目で息子がスタンバイするのを感じ、耳を研ぎ澄まして息子の息を吸うタイミングに合わせて私も吸う。音を出す。合った!! 息子が今何を感じているかを読み取る。息子との空気感。距離感。雰囲気。

最後の音がピタッと決まった!! 気づくと息子が笑顔で私を見ている。

そこには言葉はないけれど、何か通い合うものがあつた。

うれしい… ただそれだけのこと。でもこれが私の望んでいた息子との会話でした。

さて、先ほどの「最後の…」の意味ですが、この度、4月よりけやきから一松工房へ異動することになり、この原稿が私の書く最後の原稿となってしまいました。けやきの立ち上げから関わらせていただき、丸5年。たくさんの方々がたくさん迷惑をかけ、いっぱい励まされながら、ここまでやってくることができました。それなのに最後の原稿もいつものように私と息子の奮闘日記のようになってしまい、申し訳ありません。でも、この息子との出来事は私がけやきでみんなから教わったことであり、一番大事にしてきたことなのです。それが5年もかかってやっと少しだけ息子に実践できました。そのお礼と報告をこの場を借りてさせていただきます。けやきのみなさん、どうもありがとうございました。

けやきは永遠に私にとっての心の財産です。このいただいた財産を無駄にしないようこれからもがんばっていきたいと思います。本当にありがとうございました。

深山職員は、持ち前の明るさで「けやき」のムードメーカー的な存在。摂食や理学療法的な視点も持ち、この5年間「けやき」を引っ張ってきましたが、次年度より「一松工房」へ異動になりました。今後の活躍を期待!

御報告

おかげ様で今年度末、仲間に一年分の工賃が支給されます。わずかな額です。昨年度もわずかな額でしたので、おかげで昨年度より金額が「倍増」しました！（笑）けやき製品を買ってくださった方に感謝いたします。ありがとうございました。

（もっとも、金額も大事ですが、それより何より、工賃が渡されることや、工賃を渡されたことで、例えば家族の人とのやりとりや、そのお金をどんな風にするのか、お金を使ったことでどんな変化が生まれるのかなあ…。そんなことにも「けやき」職員は関心があるのでした。）

～3月「けやき」ミニ・ギャラリー②～

<けやきのある日・光>



いい天気なので、春を探しに散策へ。今年は少し遅い梅の花は今が見ごろ～♪。

お願い 「けやき」の活動の様子画像を今年度も「木洩れ日」や「生き生き展用のポスター」「けやきホームページ」などに掲載したいと思っております。掲載を希望しない利用者・保護者の方は、お手数ですが「けやき」（担当；西）までご連絡下さい。

編集後記 ▼2007年4月にスタートした「けやき」も、お陰さまで今年度終了と共に満5歳となります。至らない点は数々ありながらも、それぞれの方に様々な形でお付き合いいただけていること、心から感謝いたします。▼その時々々の事情や状況の変化に、その都度、出来る限りお互いの想いを合わせながら、皆でアイデアを出し合い、少しでも対応可能な形に変化させ、日々実践してきました。もちろん、その変化は必ずしも発展的でなく、縮小的な変化もありました。また、多くのニーズに応えられていない現状もあります。そういった意味ではこの5年間を皆さんに評価してもらおうとなれば、非常に厳しいものがあるだろうと感じております。▼ただ、変化への対応、日々の実践の積み重ねは、開設当初の「想い」を言葉にした「けやきのめざすもの」になんとか沿ってきたように感じています。「想い」は理想です。でも「想い」に沿った実践の積み重ねがあれば、理想から現実に少しずつ変化するはず。▼「けやき」は定員10名の小さな事業所です。私たち職員の力も情けないまでに「ちっぽけ」です。それでも、迷いながらも「めざすもの」をつかんで放さない日々の積み重ねが、必ず「けやき」の枠を超えた「皆の幸せ」につながっていく。そう信じて今、6年目の準備を始めています。▼そんな中、けやきを文字通り「一」から作ってきた仲間の一人、深山職員が異動になりました。非常に寂しいけれど、本人にとって、私たちにとって次へのステップの時期が来たということ。お互い、「急がば回れ」で、それぞれの場で、次のステージへまた歩き出す！▼今年度一年間、様々な形でお付き合いくださいまして本当にありがとうございました。心から感謝しています。出来ることならば次年度も様々な形でこの「けやき」という場とお付き合いください。それにしても「けやき2011」も、例年にたがわず本当にいろんなことがありました。だからこそ、いいチームだったなあ。 (・・・としみじみ思う西)